

# ワサビ

(野菜類に登録がある農薬で食品添加物、生物農薬に該当するもので水産動植物に対する影響のおそれのない農薬[本表記載農薬]のみが使用可能。★畑育苗期のみ使用可の薬剤に注意)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	灰色病	うどんこ病	べと病	白さび病	アブラムシ類	コナナガバ	タマナギンウワバ	ウリノメイガ	ハイマダラノメイガ	オオタバコガ	アオムシ	ヨトウムシ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	ナトビハムシ
アグロケア水	BM2		1	-	◎◎													
エコショット水	BM2		1	-	◎													
セレナーデ水	BM2	*	a	-	◎◎													
パチスター水	BM2	*	a	-	◎◎													
ポトキラー水	BM2	*	a	-	◎◎													
★アミスター20FL	11	*	i	2			◎											
★ランマンFL	21	*	i	2			◎											
★アリエッティ水	P7	*	i	3			こ											
エコピタ液	-		1	-	◎			◎										
エコマスターBT水	11A	*	b	-				◎				◎	◎	◎			◎	
エスマルクDF	11A	*	b	-				◎				◎	◎	◎				
サブリナFL	11A	*	b	-				◎				◎	◎	◎			◎	
ジャックポット顆水	11A	*	b	-				◎				◎	◎					
ゼンターリ顆水	11A	*	b	-				◎				◎	◎			◎	◎	
チューンアップ顆水	11A	*	b	-				◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎	
デルフィン顆水	11A	*	b	-				◎		◎		◎	◎			◎	◎	
トアローFLCT	11A	*	b	-				◎				◎	◎					
トアロー水CT	11A	*	b	-				◎				◎	◎					
バシレックス水	11A	*	b	-				◎	◎			◎	◎				◎	
フローバックDF	11A	*	b	-				◎				◎	◎	◎			◎	
ヨナガコンープラス	-	*	e	-				◎				◎	◎					
コンフェューザーV	-	*	e	-				◎	イ			◎	ガ			◎	◎	
フェロディンSL	-	*	f	-														雄
ヨトウコンーH	-	*	f	-														◎
ヨトウコンーS	-	*	g	-												◎		
★トレボン粒剤	3A	*	h	1														◎
★アドマイヤーFL	4A	劇	i	3				◎										◎
★アルバリン顆溶	4A	*	i	3				◎										◎
★スタークル顆溶	4A	*	i	3				◎										◎

「農薬の使用に当たっては、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。」

\*a:発病前～発病初期 \*b:発生初期(但し収穫前日まで)

\*e:対象作物の栽培全期間 \*f:成虫発生初期～終期まで

\*g:シロイチモジヨトウの発生初期～終期

\*h:畑育苗期(但し植付時) \*i:畑育苗期

こ:わさび(根茎)での登録

イ:タマナギンウワバ及びイラクサギンウワバ ガ:ヨトウガ

雄:雄成虫

※本表は、使用可能な農薬をすべて掲載する必要から、通常は水ワサビに発生しない病害虫名も一部掲載している。

フェロモン剤は落下する等により水系を汚染しないよう、取り扱いに十分注意する。

ワ  
サ  
ビ

# ワサビ\*1

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	育苗期	・発病株はただちに抜き取る。	
墨入病	植付前	1. 苗は無病株より株分けする。切口に黒い輪紋のないものを選ぶ。 2. 実生苗を利用する。	感染母茎からの苗伝染が最も多い。また、水生害虫などの食害痕が菌の侵入口となる。
	植付後	1. 水管理は軟腐病に準ずる。 2. 被害の多いところでは収穫を早める。	
白さび病 ・ べと病	植付前	・無病苗を植付ける。	若い葉ほど侵されやすい。5～6月および9～10月に発生が多い。
	生育期	・発病した葉や花梗は早めに処分する。	
軟腐病	植付前	1. 無病苗を使用する。特に割口の変色していないものを選ぶ。 2. 実生苗を利用する。 3. 樹陰などで水温の上昇を抑える。 4. 常に冷水(13～15℃)がかかるとし、さらに根の周辺に落葉などの有機物や泥がたまらないようにする。 5. 発病地では定植を秋から早春に行い、収穫を早めにする。	水温の高い場所に発生し、夏季高温時に多発する。
	生育期	・次の薬剤を発病前から予防的に散布する。 バイオキパー水和剤* 500～2000倍	
萎縮病	育苗期	1. 種子は無病株から採取する。 2. 苗床に病株を持ち込まない。 3. 寒冷紗などでアブラムシ類の侵入を阻止する。 4. 発病株は抜き取る。	タバコモザイクウイルス(TMV)、キュウリモザイクウイルス(CMV)およびカブモザイクウイルス(TuMV)の3種のウイルスによっておこる。 TMVは種子、種茎、汁液などで、CMV、TuMVは種茎、アブラムシによって伝染する。
	植付前	1. 苗は健全な実生苗、健全株から株分けした苗、またはメリクロン苗を用いる。 2. アブラムシ類の寄生を阻止する。 3. 発病株は抜き取る。	
アブラムシ類	育苗期 生育期	1. 育苗施設ではサイドネットや入り口に侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 以下の薬剤も使用可能である。 エコピタ液剤* 100倍	*野菜類での登録
カブラハバチ	育苗期 生育期	1. 育苗施設ではサイドネットや入り口に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 幼虫は見つけ次第捕殺する。	

## ワサビ\*1

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アオムシ ・コナガ ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗期 生育期	1. 育苗施設ではサイドネットや入り口に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 幼虫は見つけ次第捕殺する。 3. 以下の薬剤も使用可能である。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍	*野菜類での登録
その他の病害虫		ナトビハムシ、キスジノミハムシ、ヘリジロカラスノメイガ(シママシ)、ナガメ、ヒメナガメ	

\*1:ワサビ(水系で栽培するワサビ)には、野菜に登録のある農薬のうち食品添加物、または微生物農薬に該当するもので、水産動植物に対し影響のおそれのない農薬のみが使用できる。具体的には、BT水和剤、還元澱粉糖化物液剤、バチルス・ズブチリス水和剤、非病原性エルビニア・カクトボーラ水和剤である(適用農薬一覧表参照)。

※育苗期間中の病害虫防除については、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。